

TOP MESSAGE

トップメッセージ

かけがえのない
地球を守るため、
あらゆる環境問題に
積極的に取り組みます。



はじめに

大平洋金属株式会社は、ステンレス鋼の主原料となるフェロニッケルを製造しています。フェロニッケル製造において当社は、国内第1位、世界第3位のシェアを確保し、製錬技術においては世界でも高い評価を得ております。また、副産物であるフェロニッケルスラグを有効活用した製品の製造・販売や、フェロニッケル製錬の技術を活かしたリサイクル事業を展開しています。

一方、これらの事業活動に伴う環境負荷として、海外のニッケル鉱山開発と採掘、フェロニッケル製錬によるエネルギーの使用と、それに伴うばい煙、排水、温室効果ガスの排出等があり、これらの環境負荷の管理・低減に、当社は今後とも一丸となって取り組んでまいります。

震災の経験を活かして

2011年3月11日の東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の皆様の一日も早い復興をお祈りします。

震災では、当社八戸本社も津波の襲来を受け、製造設備をはじめとする多くの設備が被害を受けました。当社は1949年に創業し、これまで1960年のチリ地震による津波など、過去の津波被災経験から先ずは人命最優先であることを日ごろの避難訓練で教育してまいりました。当日も津波警報と同時に、社員、協力会社の皆さんに対し避難誘導を行った結果、幸いにも人的被害はありませんでした。また同様に、過去の経験から主要設備である変圧器、電気炉、ロータリーキルン等を高所に設置していたことで、事業への影響を最小限に食い止めることができました。しかし、改めて対策の必要性に気付かされた点も多く、非常用電源の確保や、避難場所での備蓄物資の不足など、今後の課題も浮き彫りとなりました。これらの課題については十分な検証を行い、対策を講じているところです。

2011年度は、震災から生産体制が回復するまでに約3ヶ月かかり、お客様を始めお取引先等の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。そのような中、多くのステークホルダーの皆様から救援物資の提供やお見舞いのご連絡を頂きましたこと、社員一同感謝申し上げます。

また、当社は震災復興支援として、フェロニッケルスラグ製品である路盤材2万トン、を、気仙沼市へ無償提供をさせて頂き、地盤沈下した道路のかさ上げ工事に活用して頂きました。八戸市内各所でも災害復旧用土木用資材として、当社路盤材を使用させて頂いております。

環境対策を着実に推進

冒頭でも申した通り、当社はフェロニッケルの製錬を始めとする事業活動において、鉱物資源や多くのエネルギーを使用し、それに伴いばい煙、排水、温室効果ガスを排出しています。これらの環境負荷に対し、省エネルギー対策、ばい煙や排水の処理施設や常時監視システムの導入等、環境負荷低減のための様々な対策を行っています。また、ニッケル鉱石採掘後の鉱山のリハビリテーション促進支援にも取り組んでいます。

さらに、これらの取り組みをより体系的に強化するため、2009年、ISO14001の認証を取得しました。認証登録から3年を経過し、社員一人一人が環境管理の重要性をより強く理解するようになり、現場における汚染防止のための自発的な取り組みや、環境対策に係る内部コミュニケーションの活性化につながっていると感じています。今後とも、著しい環境側面ばかりでなく、あらゆる環境リスクに対し継続的改善を図っていく所存です。

現在、環境設備は製造設備の一環であるとの考えから、排水のさらなる環境負荷低減のため排水終末処理施設を建設中であり、2013年4月より稼働する予定としております。製造段階で及ぼす環境負荷を低減することは、生産活動の一環であること、地域に与える環境負荷をより減らすことが我々の義務であることを、社員には教えていきたいと考えています。



当社の技術で循環型社会に貢献する

当社では、フェロニッケル製錬において副産物として得られるフェロニッケルスラグを、路盤材、コンクリート用細骨材等の製品として加工し、自然石の代替品として販売しております。また、当社の高い製錬技術を生かし、ごみ焼却灰や地元のホタテ貝殻などを再資源化する事業を行っています。廃棄物の最終処分場の建設は年々難しくなり、最終処分量を削減し、循環型社会の形成に向けてリサイクルを推進することが求められている今、当社はあおもりエコタウン事業に参画し、地域の製造業で発生する副産物や廃棄物のリサイクル循環事業を行い、地域のゼロエミッションに貢献しています。

環境報告書の発行に当たり

今回、環境報告書発行に当たり、ステークホルダーの皆様には当社の実直な環境活動の取り組みをお伝えしたいと考えています。また、当社社員に対しても本報告書によって、環境活動に対しより意識の向上と理解を深めてもらいたいと考えております。

ステークホルダーの皆様にはぜひご一読いただき、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。これからも社員一丸となり、生産活動の一環として環境活動を進めて参ります。

大平洋金属株式会社
代表取締役社長

東洋幸